

最優秀賞 国土交通大臣賞

命を支える水

茨城県 筑西市立下館中学校

二年

大山 拓実

「お水ちょうだい」

小さい頃から、僕の飲み水はいつも水だった。朝も、遊んでのどがかわいた時も、遠足の水筒の中身も。他の食べ物の味をじやますることなくのどをすっきりとうるおしてくれる所が好きだ。

一歳にならない頃、僕は喘息になった。体も小さく食欲もなかった。二週間に一度通院し、毎日薬を飲む。ひどくなると吸入したり、入院したりした。苦い薬や吸入の煙は、胸の奥までむせかえった。大嫌いだ。でも、家族と離れて入院するのはもっと嫌だった。ので我慢した。吸入の後の水は、苦みも一緒に体の中へ押し込んでくれるような気がした。嫌なことから解放された安ど感からか、ほっとしながら水を飲んだことをよく覚えている。

三歳になり、スイミングを習い始めた。水の中でふわっと浮く不思議な感じや、水の中で魚のように体を自由自在に動かせる快感から、僕はスイミングに夢中になった。プールでたくさんの友達ができ、いろいろな泳ぎ方を覚えることができた。小児科への通院の間隔が開くようになった。

今までじっくり考えたこともなかったが、僕にとって水は、なくてはならない飲み物であり、たっぷりと水を張ったプールは、僕の体を鍛えてくれた大切な場所だった。そして、いつも安心して水を飲んだり楽しく体を動かしたりすることができたのは、僕が日本という水資源に恵まれた国に生まれたからなのだ。

日本は、水資源に恵まれた国だ。周りを海に囲まれ、降水量も多く国土にはたくさんの土地が連なっている。山々の森林が作り出す土壌の働きによって、洪水や水不足を防いでいる。そして、森林の浄化作用によりわき水はおいしくなる。この僕が生まれてくるずっと前から行われてきた自然の営みにより、僕はたくさんの恩恵を受けてきた。そして、日本のすぐれた浄水技術により、浄水場できれいで安心な飲み水として、じゃ口をひねれば、いつでも好きなだけ水は僕達の家には届けられるようになった。

しかし、その一方で、近年森林伐採などの自然破壊、生活排水や排気ガスなどによる環境汚染、放射能汚染などにより、水の安全性が心配されるようになってきている。水は自然の大きな力によって循環している大切な資源であり、森林、空気、川、土壌どれかひとつ欠けてしまっても汚染されてしまうのだ。

だから、僕達は、忘れてはならないと思う。水は飲み水だけではなく、お風呂や洗濯など日常生活をしていく上でなくてはならないものであること、体を鍛えたり心を安らかにさせたりする力があること、農業や工業を支えている大切な資源であること、小動物や植物など地球上の生き物全ての命の源であること、そして資源には限りがあるということ。

限りある水資源を守るために僕達が今できることは何だろう。洗剤の量を減らすこと、ゴミを増やさないこと、植物を増やすこと、水を大切に使うこと・・・。当たり前にあるおいしく安全な水がなくなってしまう前に、できることから努力しなければならぬ。

連休に入り、田植えが始まった。水面は太陽の光で輝き、夜にはカエルの鳴き声が聞こえるようになった。田んぼの中にはおたまじゃくしやゲンゴロウが気持ちよさそうに泳いでいる。たくさんの生き物がこの田んぼの中にいて、生かされているのだろう。いつもは何気ない風景が、すごいことのように思えた。

水は、全ての命の源である。なくてはならない僕の命を支えてくれている。そう考えながら飲んだ水は、いつもよりずっとおいしく感じた。